

足元の日本株の調整は一時的か？

ポイント① 足元で日本株が急落

足元で日本株が急落しています。日経平均株価が高値を付けた9月14日以降で見ると、6日現在で日経平均が▲10.2%、TOPIXが▲8.4%となっており、NYダウの▲0.5%、独DAXの▲4.8%と比べても下落率が大きくなっています。

ポイント② 下落要因は外部環境の悪化

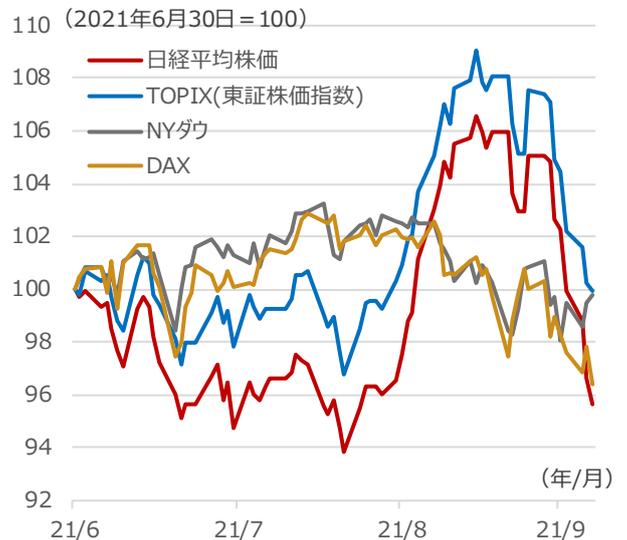
下落要因は、原油価格上昇や半導体不足などによるコスト負担増とそれに伴う業績悪化懸念、米国長期金利上昇や中国の不動産業界の不透明感への警戒など、様々な外部環境の悪化であると考えています。また、日本独自の要因として、金融所得増税が浮上するなど、岸田新政権への期待が高まらないことがあり、欧米市場が下落した9月に期待先行で上昇した反動も大きいと思われます。

ポイント③ 日本企業の経営力は向上続く

TOPIXの向こう12か月先の予想EPS*1は133ポイント程度です。アベノミクス相場以降、日本株のPER*2は概ね13～15倍の範囲にありました。つまり、1,730～2,000ポイント程度であれば妥当水準と言え（日経平均に置き換えれば25,000～29,000円程度）、6日の株価は妥当水準と言えます。

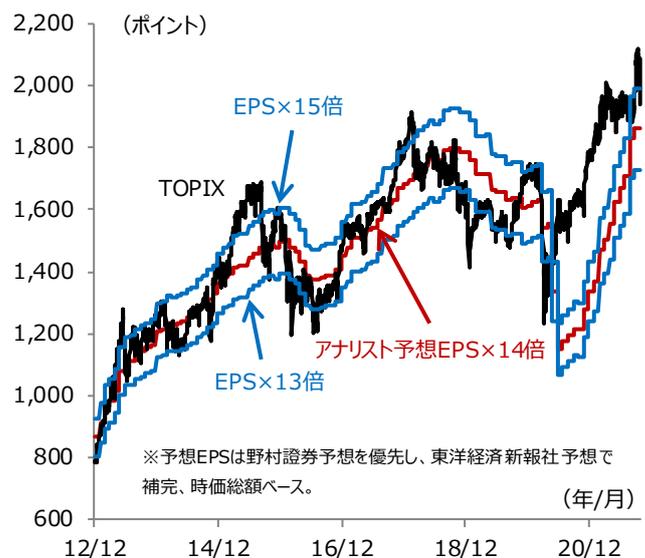
一方、日本企業はESG*3への取り組み強化など、企業努力という観点では寸分の後退もなく、絶え間ない経営力向上が続いており、長期的な視点ではポジティブな面も多いと考えています。こうした考え方に基づけば、外部環境の悪化、政治への失望などによって株価が妥当水準まで調整している現局面は、一時的な調整の可能性が高いと考えます。

主要国株価の足元の推移



期間：2021年6月30日～2021年10月6日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

アベノミクス以降のTOPIXの推移



期間：2012年12月3日～2021年10月6日、日次

*1) EPS：1株当たり利益
*2) PER：株価収益率（株価÷1株当たり利益）、代表的割安性指標
*3) ESG：環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取って作られた言葉
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成